

深〜く

★由木地域を知る！ その2

由木城址探求コース

はちとぴ
観光★
——特撰——



あともう
少しだよ！

この場所を
ご紹介します！

②蓮生寺公園



季節感豊かなコナラやクヌギの雑木林と鎮守の森が残された公園。多様なハイキングコースが設定されている。散策路には「ぶくろうの道」「どんぐりの道」などの名がつけられ、各所に広場がある。「さえずり橋」という吊り橋も架かる。

①蓮生寺（薬師堂）



天台宗として開山したが、後に曹洞宗に改宗した。本尊の薬師如来立像は、「別所の薬師さま」と呼ばれ、眼病の仏としてあがめられている。都文化財で平安時代末期作の木造盧舎那仏坐像、市文化財で市内最大の宝篋印塔がある。

京王堀之内駅 ～松が谷駅

- ① 蓮生寺（薬師堂）
- ② 蓮生寺公園
- ③ 松木七郎の宝篋印塔
- ④ 富士見台公園
- ⑤ 由木中央市民センター
- ⑥ 由木村忠魂碑
- ⑦ 永林寺
- ⑧ 由木城址
- ⑨ 玉泉寺
- ⑩ 秋葉台公園
- ⑪ 沖ノ谷戸公園
- ⑫ 中央大学
- ⑬ 清鏡寺
- ⑭ 大塚神明社のイチヨウ
- ⑮ 由木東市民センター
- ⑯ デジタル・ハリウッド大学



④ 富士見台公園



由木地区最大級の広い芝生がある緑豊かな公園。ソメイヨシノやヤマザクラなどが植えられている。最高所の展望台からは、天気が良ければ富士山を見ることができる。2020（令和2）年にリニューアルされ、多くの遊具が設置された。

浅間神社の境内に建ち、松木七郎の墓と伝えられる。室町時代初期のもので高さ175cmと小型。ほぼ完全に近い形で残っている中世の宝篋印塔である。松木七郎は不明な点の多い人物だが、「松木」の地名の由来になったという。

③ 松木七郎の宝篋印塔



⑤由木中央市民センター



1988（昭和63）年、市内5番目の市民センターとして開館。会議室や和室、調理室、音楽室、体育室、談話コーナーなどがある。由木事務所のほか、地域福祉推進拠点と由木中央市民センター図書館を併設している。

⑧由木城址



永林寺の辺りから野猿峠までは由木氏の居住地であったといわれ、殿ヶ谷戸といわれている。寺ができる前はここに居館（由木城）があり、大石定久が山城に移るまで住んでいたという。本堂裏手高台に石碑が建つ。

⑥由木村忠魂碑



八王子市農協由木支店の北側にあつた。1919（大正8）年建立。日清戦争2名、日露戦争7名、計9名の戦死者の氏名などを刻んでいる。背後に1952（昭和27）年に建てられた「満州日華事変並大東亜戦争戦没者英霊芳名」の碑がある。

⑨玉泉寺



南北朝時代の創建と伝えられる。古来より真言密教の修行道場として興隆し、堂内には歴代の修行僧の法具や経典が数多く守り伝えられている。境内には1798（寛政10）年建立の宝篋印塔が1基あり、信州高遠の石工団蔵の銘がある。

⑦永林寺



1532（天文元）年「永麟寺」として創建され、大石定久や北条氏照の庇護を受けた。本堂は1546（天文15）年に建立。後に焼失したが、1669（寛文9）年に再建され、現在に至る。墓地には大石定久の墓、本堂裏手高台に銅像が建つ。

⑩秋葉台公園



起伏豊かな地形的特徴を生かして整備された公園。高さ15mもの巨大ピラミッドにある大きな滑り台「ドラゴンスライダー」が目目をひく。もともとあった秋葉神社が火伏せの神を祀っていたことから、「火の鳥」をデザインしたオブジェもある。

ひと休み
コラム

吉田観賞魚販売株式会社

吉田観賞魚販売株式会社のルーツは、1921（大正10）年、吉田定一が井戸を掘り、食用鯉の養殖を始めたことに遡ります。「祖父はとても厳格な人でした」と定一の思い出を語るのは、現在社長を務める吉田俊一さん。特に春は鯉の産卵の季節で、水づくりをはじめとした環境整備に神経をつかうため、とても緊張した雰囲気漂っていたそうです。



▲1960年ころの店舗



▲現在の店舗風景

やがて観賞用の錦鯉や金魚の卸業にかかわり、海外への輸出も展開するようになりました。1990年に3代目の社長に就任した吉田さんは、商談でイギリスへ出張した際、とあるガーデンセンターで楽しみながら生き生きと買い物をしていくお客さんの姿を目にし、この雰囲気再現したいと思いつきます。早速、卸売り中心だった販売形態を小売りの仕組みに転換し、よりお客さんに楽しんでもらえるようなスタイルに変えていきました。

現在はアルバイトを含めた約80人のスタッフが、観賞魚専門店「ヨシダフィッシュファームズ」、園芸専門店「グリーンギャラリーガーデンズ」、セレクトショップ「ガーデンズマルシェ」、レストラン「Au coju（オーコジュ）」の

⑪沖ノ谷戸公園



2013（平成25）年開園。小高い丘に広がる森をそのまま残した公園。散策路が整備され、森の豊かさを感じることができる。園内には古くからこの地に鎮座する愛宕神社があるほか、1944（昭和19）年ころにつくられた防空壕が残されている。

⑫中央大学



1885（明治18）年「英吉利法律学校」として創設。1978（昭和53）年に多摩キャンパスが開設され、文系の4学部（法・経済・商・文学部）が神田駿河台から移転した。その後、総合政策学部、国際経営学部も設置された。

⑬清鏡寺



旧本堂は関東大震災で倒壊してしまつたため、自由党広徳館館長の林副重の家を移築し、改造した。本堂裏手の高台にある観音堂には木造十一面観世音菩薩立像が安置されている。寄木造りで作者不明だが、鎌倉時代初期のものと考えられている。

⑭大塚神明社のイチヨウ



由木東市民センター駐車場横、梶川緑地に立つ。大塚神明社は、多摩ニュータウンの開発により近くの八幡神社に移転したが、神木とされていたイチヨウはこの場所に残された。目通り約5・7m、高さ約22・5m、樹齢約500年といわれる。

⑮由木東市民センター



1990（平成2）年開設の、市内で最も東にある市民センター。会議室のほか、和室、調理室、音楽室、美術室、地区図書室などを備えている。由木東事務所や地域福祉推進拠点、高齢者あんしん相談センターを併設している。

⑯デジタル・ハリウッド大学



旧三本松小学校跡地をそのまま生かした大学の制作スタジオ。学校シーンのあらゆる場面を撮影することができ、学生たちの撮影実習や自主制作映画などに使用されているほか、テレビドラマや映画の撮影にも重用されている。



▲レストランAu coju

4店舗を運営し、新宿やたまプラーザにも店舗を展開しています。また、ガーデニング工事の設計施工、鯉を飼うための池の工事や管理も請け負っています。

「来ていただいた方に非日常空間を提供して、くつろいでもらえるよう心掛けています」と語る吉田さん。

ん。おしゃれな敷地内には、色とりどりの観賞魚だけでなく、骨とう品や釣り堀などもあり、訪れるだけで楽しむことのできる空間を作り上げています。

吉田さんは由木という地域全体の活性化にも一役買っています。その1つが、2014年に始まった「大栗川キャンドルリバー」で、イベントの立ち上げから運営の中心でかかわってきました（はちとぴ32号参照）。昨年はコロナ禍もあって、リモート開催という形になりましたが、6回目を無事開催することができました。また、毎月「Au coju」では「由木カフェ」というイベントを開催し、地元の人たちとの交流の場を作っています。「新しくこの地域にきた方、古くからおられる方、いろんな方が自由気ままに語り合える、あいさつのできる場を作りたいと思っています」と吉田さん。そして、こうした取り組みを通じて「由木発の文化が出てくれると面白いですね」とも続けます。吉田さんが展開する店舗やイベントから、新たな由木の姿が生まれてくるかもしれません。



▲吉田俊一さん

●吉田観賞魚販売株式会社
松木15-3
☎676-7111
営業時間 10時～19時（火曜のみ17時まで）
定休日なし



の市民団体紹介

応援します
市民力。

市内で活躍する元気な団体・サークル・同好会を紹介するコーナーです。
活動内容やイベント情報など、編集部までお知らせください。

- ◆活動場所：由木地域の市民センター、公園など
- ◆活動時間：メカイ作りは10～4月の毎週木曜日
- ◆問い合わせ先：(674) 9901 (塩谷)

里山農業クラブ

農なくして里山なし

1990年代、定年を迎えた塩谷暢生さんが堀之内に移住したとき、由木地域は多摩ニュータウンの開発途上にありました。住宅も建たず、荒れ果てた土地を前にして、塩谷さんは何とかしなければと奮起し、農作業に取り組み始めます。塩谷さん同様、定年を迎えた地元の方々とともに、田んぼを耕しての米作り、昔ながらの窯での竹炭焼きなどを開始。2000(平成12)年12月12日には「里山農業クラブ」を立ち上げました。現在は根っからの地元の人はいなくなり、メンバーは30人ほど。メカイ作りがメインの活動となりました。

メカイはメカゴとも言い、里山に自生するシノを使い、6つ目編みにして作られる目の粗いザルやカゴのことです(「はちとび」41号参照)。由木地域では1950年代くらいまで農家の副業として、シノを活用したメカイ作りが盛んに行われていました。しかし現在では生業としていない方はいないため、かつてメカイを作っていた地元の方を講師として、一連の作業工程



メカイ作り実演のようす

を学んでいきました。メカイ作りにかかわるメンバーは、山に行つてシノを切り、最後の整形まで1人でこなしています。力仕事もあるのですが、それを担っているのは主に元気な女性たち。作業日にはみんなでワイワイと語らいながら自分の作品を作っています。

また、郷土資料館や高尾599ミュージアムなどでの実演、講習会での編み方の指導のほか、技術継承のためにマニュアル『メカイの作り方』を作成して、後進の指導もしています。

「里山を残すということは、農業をするということでもあるんです」と塩谷さん。地元根付いた農作業に取り組むことで、由木地域の里山の保全活動につながるようとしています。

小島善太郎と八王子

洋画家、小島善太郎は1892(明治25)年に東京で生まれ、40代から約40年間に八王子で過ごしました。少年期には極貧の生活を送りましたが、援助を得て絵を学び、パリに留学します。

帰国後、1932(昭和7)年には南多摩郡加住村(現八王子市丹木町)に転居し、瀧井孝作らと桑都文化協会を発足します(翌年八王子文化連盟に改組)。文化運動などを通じて市民と積極的にかかわり、1964年には小島を慕う人びとにより「愛善会」も組織されました。ところが、自宅敷地内に都道が建設されることになり、1971年に日野市百草に転居することになりました。

油彩画を始め、多くのデッサンや資料を保存している八王子市夢美術館では、収蔵品展などの機会に作品を紹介しています。また、青梅市立小島善太郎美術館、日野市立小島善太郎記念館(百草画荘)でも作品や資料を展示しています。百草画荘では、次女の小島敦子さんがお父様の語り部としての役割を務めています。

(「はちとび」19号、本誌P15広告参照)



小島善太郎と妻の恒子
(八王子のアトリエにて、1941年)

※ここは「はちとび」を応援してくださっている方々に自由に使っていただくフリースペースです。今回は「百草画荘」です。

八王子の民俗誌 14

八王子地域社会研究会 代表 佐藤 広

由木地区の歴史民俗を記録した方々



▲小泉栄一氏

鍵水に八王子市で唯一の東京都指定有形民俗文化財がある。八王子市の日本遺産認定ストーリーの構成文化財の1つにもなっている「小泉家屋敷」である。

多摩丘陵の谷戸にいたかれた典型的な養蚕農家で、裏の尾根道は鎌倉みち、表は横浜へとつづく浜街道（絹の道）に面する。母屋や土蔵などの建築物だけでなく、環境も含めた面としての屋敷の指定となっている。鍵水の市指定文化財の諏訪神社の三社殿と絹の道、そして「小泉家屋敷」は相互に養蚕や絹取引で関連している。

鍵水は、伝統的な谷戸「この集落が今もコミュニティの基礎となっている。貴重な明治初期の共有文書を保存し、2015年には町会と鍵水歴史研究会で『ふるさと鍵水——八王子市鍵水の歴史と文化』を住民の手で執筆・刊行した。歴史文化を大切にする気風は保たれている。

「小泉家屋敷」の小泉栄一（1917～99）は、故郷への深い愛情を『多摩の丘かげ』（1970）など多くの著作に残している。家族や周囲の賛同も少ないなか、「隗より始めよ」と、

多摩丘陵から農家が消えてしまつたので自宅の文化財指定に同意し、1972年4月に都有形民俗文化財の指定を受けた。多摩ニュータウン造成工事に直面し、心情を吐露している。「いよいよ向山にもブルドーザーがうなり出した。多摩ニュータウン造成のために、何百年来わが家所有として代々眺め暮してきた山は、畑は、竹藪は、突き崩され始めた。秋毎に根元に千本しめじを育ててくれた榎の雑木山、銀寄せという品の栗林、又五月にはやわらかい筍を食卓に送ってくれた孟宗竹が、十人程の作業員の電気鋸でバリバリと切り倒されてゆく、もうおしまいである。長い長い溜息、限らない愛情、わたしには耐えきれない昭和四十七年一月十四日であった」（『四面楚歌』『由木小百年史』）と。

教員であった東中野の堀口進は、多摩ニュータウンの造成工事が進出した1970年ごろから、由木地区全域での写真撮影を行っていた。その写真の一部が『八王子市東部地域 由木の民俗』（八王子市）に収められている。

下柚木の古刹、永林寺の住職で教員であった小倉英明は、早くから郷土教育に着目し、『私たちの郷土由木村』（1961）をまとめている。これらの記録が、その後の由木地区の歴史文化の基礎データとなっている。

激変した由木地区の歴史や民俗の事実だけでなく、その時代、その場所に生きた人々の心持ちにも、ぜひ関心を持ってほしい。

八王子の原風景 14

元・八王子市市史編さん研究協力員 馬場喜信

八王子散歩のしめくくり（最終回）



東京都の西端に位置する私たちのまち八王子。多摩川の主要な支流である浅川の流域に市域が広がり、西方には関東地方をかこむ山稜を締めくくる連山が並んでいる。

八王子市域の一隅に住みつてから半世紀ちかい歳月がすぎた。拙宅はちよつとした高台にあり、西方への眺望にめぐまれていた。高尾山から陣馬山へとつづく峰々が四季折々にその姿



を見せてくれている。その山容に惹かれ、それまで中断していた山歩きをはじめた。思い立って暇さえあればいつでも、小さなザックひとつに握り飯と水筒を入れて山にゆける。その喜びと楽しさを満喫してきた。

必携品は、国土地理院の2万5千分の1地形図。その刊行図面が遅れていた東京近郊の地にまでおよぶようになり、八王子市域の地形が鮮明に読みとれるようになった。登山ガイドブックとともに、この地形図がなによりも歩く指針となった。川沿いの道を歩いてから尾根に登り、遠くの山々を眺めながら稜線の道を行く。広い地域のすみずみまで歩きつくしたとはいえないが、楽しい充実した日々だった。

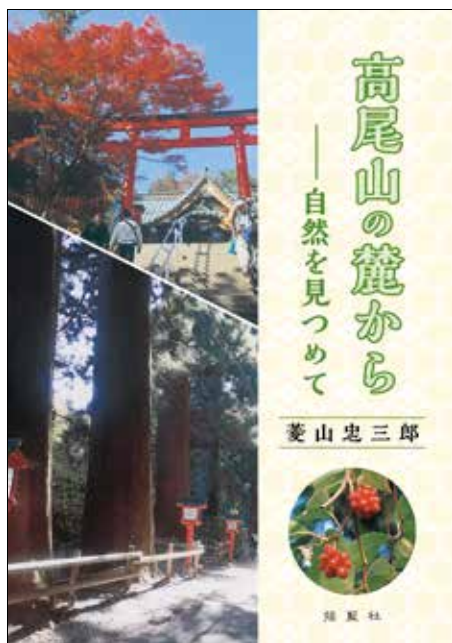
この連載で市内の全域にふれることはできなかったが、これで最終回とします。

（写真は、1978年ごろの片倉町風景です）

私の本はこうして生まれた 其の四十八

『高尾山の麓から——自然を見つめて』 菱山忠三郎 著

NHKの人気番組「ブラタモリ」の高尾山の回に登場した植物博士・菱山忠三郎さんの珠玉のエッセイ集。高尾山の麓に生まれ、高尾山の懐で育ち、高尾山の植物に魅せられた著者。自由闊達に書き綴られたエッセイの数々には、高尾山の自然が抱く豊潤な魅力が満ち溢れています。汲めども尽きぬ「高尾山よもやま話」を堪能したら、お次は自然を見つめてみましょう。自然はいつでも静かに待っていてくれますよ。



私は高尾山に近い現在の八王子市上恩方町（旧南多摩郡恩方村）に生まれまして。高尾山に近いところに生まれ、この山にずっとかわりながら日々を送ることができるのは本当に私にとって何よりの幸せでした。

本文に入る前に、これまでに43年にわたってつづけた私のつたない版画の年賀状をお目にかきたいと思いま

す。干支^{えと}を題材として、それに関連する植物をそれぞれデザインしたものです。これを長く続けてきました。ぜひ皆様にみていただけたらうれしいです。その年の干支につながる植物をさがすのは、私にとって毎年の楽しみでもありました。長くつづけたということでご容赦ください。

高尾山は海拔わずか599メートルというあまり高い山ではありません。面積もそれほど広くありません。それでも、自然に恵まれた山、動植物の豊富さは他に例がないほどといわれます。東京都心から至近の距離にありながら、このあたりには珍しく、かな

りの面積の天然林が残されています。地形をみても、岩場、滝など、複雑な地形をもち、その森林が奈良時代から山岳信仰の霊場として常に守られてきたというのは多くの人にうなずかれることでしょう。

これからもずっと高尾を愛する人たちによって守ってゆきたいものと思います。

また、この山は日本の森林帯からみて、暖温帯と冷温帯の境目ぐらいに位置しています。そのため、山の南側はカシ類、ツバキ、サカキなどの常緑広葉樹が多く、北側はイヌブナ、ブナ、カエデなどの落葉広葉樹が広がっていると

いうおもしろい特徴もあります。当然、植物などの分布も多様になっています。高尾山の植物相の得がたい特徴です。

その他、高尾山などに関連すること、周辺でのエピソードなど、エッセイ風にいろいろなよもやま話を載せました。肩のこらないようにしたつもりです。ぜひ気楽にみていただければと思います。

（著者記）

『高尾山の麓から——自然を見つめて』

定価1700円＋税 揺籃社刊
A5判・166P・フルカラー
※本書をお求めの際は、お近くの書店か当該編集部までどうぞ。

※このコーナーで紹介する自費出版本を募集しています。紹介してほしい本がありましたら、ご一報を。

夜間中学という、山田洋次監督の映画「学校」シリーズを思い出す方が多いでしょうか。様々な事情で義務教育を受けられなかった年配の方が学び直しているという印象があるかもしれません。しかし現代では、生徒の多くを在留外国人が占めています。少子高齢化を背景に、国や経済界が外国からの労働者を積極的に受け入れているためです。彼らや彼らの子どもたちの教育機会について多角的に論じているのが本書。先進的取り組みを続けてきた川口市でのフィールドワークを元に、夜間学級の持つ今日の意味を問い直しています。八王子市立五中の夜間学級も登場。



多文化共生と夜間中学
—— 在留外国人の教育課題 ——
大重史朗・著
★ 揺籃社・発行 2600円＋税
★ 四六判、256ページ
※本書をお求めの際は、お近くの書店でご注文いただくか、当誌編集部までお問い合わせください。

八王子市のなかでも独自の歴史を歩んできた由木地域。由木に生まれ、故郷に人一倍の愛着を持つ著者が、長年の郷土史研究の成果を1冊にまとめたのが2013年。版を重ねたものの、ここ数年は品切れ状態でした。『新八王子市史』の発刊に触発されて、このたび新情報を盛り込んだ改訂版を刊行。40ページ近いボリュームアップとなりました。先史時代から現代までの由木の変化が編年体で分かりやすくつづられています。由木はもとより、八王子、多摩地域の歴史研究においても重要な位置を占める名著、ここに復活です！



武蔵国多摩郡と由木の里の昔語り
改訂版
石井義長・著
★ 揺籃社・発行 2000円＋税
★ 四六判、468ページ＋カラーグラビア10ページ
※本書をお求めの際は、お近くの書店でご注文いただくか、当誌編集部までお問い合わせください。

わがまち八王子探訪シリーズ「浅川」(仮)

次号

次号で取り上げるのは市の南西部に位置する浅川地域。ほぼ全域が都立高尾陣場自然公園に含まれ、市内で最も有名な観光地、高尾山を有しています。霊場として知られる薬王院やかつて甲州道中の関所でもあった小仏峠などの歴史的見どころのほか、豊かな自然環境もご紹介します。情報募集中！

第49号(清風号)は
9月1日発行予定



広告募集中！

「はちとび48号」は9,000部を発行、右記の場所に配布いたします。八王子市民にアピールしたい商品やサービスの広告にピッタリ。是非、協賛ください。

提携店募集中！

お客さんとのコミュニケーションツールにしたり、待ち時間の合間に雑誌感覚で読んでもらったりと、利用方法はさまざま。「はちとび」を新サービスとしてご活用ください。

お問い合わせはこちら

揺籃社(清水工房内)
はちとび編集部
TEL (620) 2615
FAX (620) 2616
E-mail info@simizukobo.com

「はちとび」の置いてあるところ

公共施設

八王子観光コンベンション協会
八王子商工会議所
八王子市郷土資料館
八王子市中央図書館
八王子市川口図書館
八王子市南大沢図書館
八王子市生涯学習センター図書館
八王子市絹の道資料館
八王子市役所産業振興部
八王子市役所スポーツ振興課
道の駅「八王子滝山」
サイエンスドーム八王子
八王子クリエイトホール
八王子学園都市センター
八王子市民活動支援センター
八王子子ども家庭支援センター
八王子市芸術文化会館いちようホール
八王子市教育センター
八王子市南大沢事務所
八王子市南大沢文化会館
八王子セミナーハウス
長池公園自然館
高尾山599ミュージアム
タヤけ小やけふれあいの里
市内各市民センター

お店・企業・学校

アート八王子
アクサ生命
南赤坂商店
御菓子司 旭苑
吾妻寿し
アメニティーライフ八王子
㈱荒物加島屋
小俣ダンススタジオ
café de la poste
café rin
金子商店
ギャラリー・スペースことのは
京晴(株)
くまざわ書店
くまざわ書店西八王子店
㈱クラブS保険サービス
グループホームびおら
桑の実幼稚園
敬愛保育園
啓文堂高尾店
工学院大学
小谷野紙店
南埼玉屋本店
和食 坂福
等
坂本クリニック・坂本医院

J A八王子ふれあい市場
シミズパーク24
東京立大学
スマイルこどもクリニック
㈱スリーボンド
せいがの森保育園
セブンイレブン八王子北口店
創価大学
高尾の森わくわくビレッジ
拓殖大学
そば・うどん 玉川亭
たましん散田店
多摩美術大学
中央大学
東京家政学院大学
東京工科大学
東京工業高等専門学校
東京純心大学
東京造形大学
東京薬科大学
とみりえ
中野屋商店
㈱中村自動車
㈱日住
ハーモニーネット
はちねこ！カフェ
八王子エルシィ

八王子学園八王子高等学校
八王子自動車学校
八王子市役所売店「はっち」
八王子消化器病院
㈱富士屋
ふもとや
Coffee Bricks
ベネック
法政大学
まつおか書房
松姫本店
㈱峰尾豆腐店
みやま大樹の苑
山梨中央銀行八王子支店
㈱山六
有隣堂CELEO八王子店 等

その他団体など

サイバーシルクロード八王子
八王子法人会
八王子市医師会
八王子市職員等事業本部
八王子自治研究センター
八王子センター元気
八王子いちよう祭り祭典委員会
墨のアトリエ墨童舎
はちとびサポーターの会 等